



かわい



<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/>

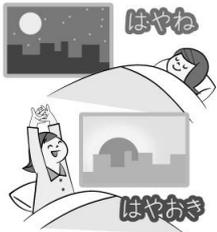
ピンチはチャンス

～今こそ家庭教育の充実を！～

校長 窪田 剛久

新型コロナウイルスが猛威を振るっています。3月3日（火）から学校が臨時休業となって、早や2か月弱が過ぎ去りました。その間、学校としても緊急受け入れ、学習プリントの配布など、できる限りの対応を取らせていただいておりますが、各ご家庭におかれましては、多大なるご負担をおかけしていることと思われまます。1日でも早く、学校再開の指示が出ることを、職員一同、心から願うばかりです。

さて、長期休業期間を除いて、これほど長い期間、お子様とともにお過ごしになる時間がとれるのは、未だかつて経験したことがないですね。ご家庭によって過ごし方は様々かとは思われますが、家庭教育について確かめるにはいい機会ではないでしょうか。



【基本的な生活習慣を身につける】

教育基本法では、家庭教育の重要性が注目され、学校・家庭・地域の連携による子育ての大切さが言われています。生活習慣が身につくこの時期に、多くの人の支えで子どもたちの自立心が育ち、心身の調和がとれ、健やかに成長します。家庭学習の習慣化を図るには「早寝早起きをする」「朝ご飯を食べる」「あいさつをする」「家事を分担する」などの基本的な生活習慣の確立としつけが大切です。

教育基本法
第十条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

【「やる気」と自主性を育てる】

小学校低学年では、一人で学習の内容や方法を決めることはまだ難しく、家族の手助けが欠かせません。子どもができるまで待ったり、始めは一緒にしたりすると自信がもてます。「よくできたね!」といった大人のほめ言葉が、子どもの「やる気」を生み出します。

中学年では、自立心が芽生え、自分でしようとするが増えます。子どもの「がんばり」を本気でほめると自主性が伸びます。好奇心が旺盛になり話題も増えますので、子どもの話をきちんと聞き、語り合う時間をもつようにすると思慮深くなります。

高学年では、自分を客観的に見つめたり、友達と自分を比べたり、大人からどのように見られているか気にするようになります。家事を分担するなど家族の一員として自覚と責任をもって過ごすことで自己肯定感の育成につながり、自立が自律へと向かいます。

【学習環境を整える】

家庭には、心の安定の場としての役割があります。嫌なことがあったり、イライラしたり、元気がなくなったりした子どもに対し、家族がその様子を察知できるか否かは、子どもの健やかな成長にとって大切です。昨今の状況の中でも家族の一人一人が安定し、子どもの気持ちを受け止められるだけの余裕と愛情をもって接することで、確かな信頼関係が築かれます。

家族と一緒に過ごすことが多い、この時だからこそ、見えてくる子どもの姿があるのではないのでしょうか。ぜひこの機会を、家庭教育を見つめる良きチャンスにしてみてください。